

指標名：ESPフォーキャスト調査(2008年7月)
～4-6月期の見通しがさらに下方修正～

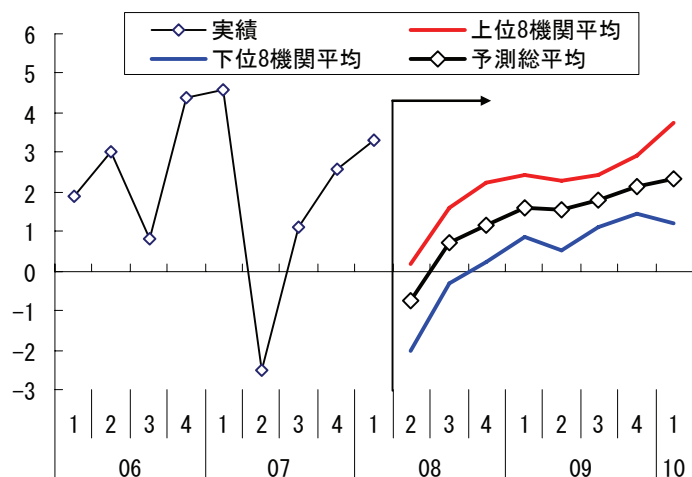
発表日：2008年7月10日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部

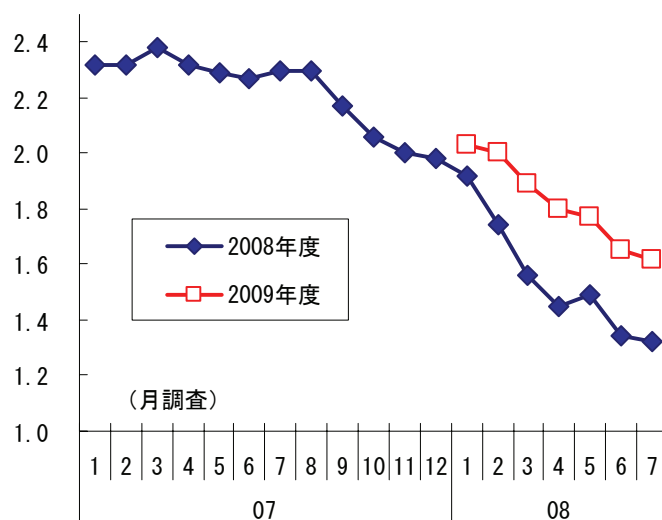
担当 主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528

(図1) 実質GDP予測(前期比年率、7月調査、%)



(図2) 実質GDP予測値総平均の推移(前年比、%)



(出所) 経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成

○ 4-6月期の成長率は前期比年率▲0.74%とさらに下方修正

本日、経済企画協会から7月のESPフォーキャスト調査が発表された。ESPフォーキャスト調査は、37のエコノミスト・調査機関を対象にGDP成長率や消費者物価などについての予測値を集計しているものであり、月々のコンセンサスの推移が把握できる。

2008年度の実質GDP成長率予測は前年比+1.32%(6月+1.34%)、2009年度が同+1.62%(6月+1.65%)と、両年度とも僅かに下方修正された。6月に公表された1-3月期GDP2次速報が上方修正され、2008年度への成長率のゲタは上がった一方で、原油価格の高騰など外部環境の悪化が目立っていることから、トータルでは僅かながら下方修正となった。

四半期別では、2008年4-6月期の見通しが前期比年率▲0.74%と、前月の同▲0.26%から下方修正されたことが目立つ。前回調査時点で既に4-6月期のマイナス成長はコンセンサスになっていたが、食料品等の生活必需品価格上昇を受けた個人消費の悪化等を背景として、さらに下方修正されたようだ。

景気転換点についての質問では、「景気の転換点はすでに過ぎた」と回答したフォーキャスターが16名(44.4%)と、前回調査(8名)から倍増した。また、「転換点はまだ過ぎてない」と回答したフォーキャスターについても、平均41.3%の確率で「今後1年以内に景気の転換点を迎える」としている。

また、日本銀行の金融政策についての質問に対しては、回答した35名中22名が利上げは2009年6月以降と予想しており、2008年中の予想は1名のみである。なお、利下げを見込んでいるフォーキャスターも一名いる。

資料3 日銀の金融政策（利上げ時期）についての予想（回答期間6月25日～7月2日） (人)

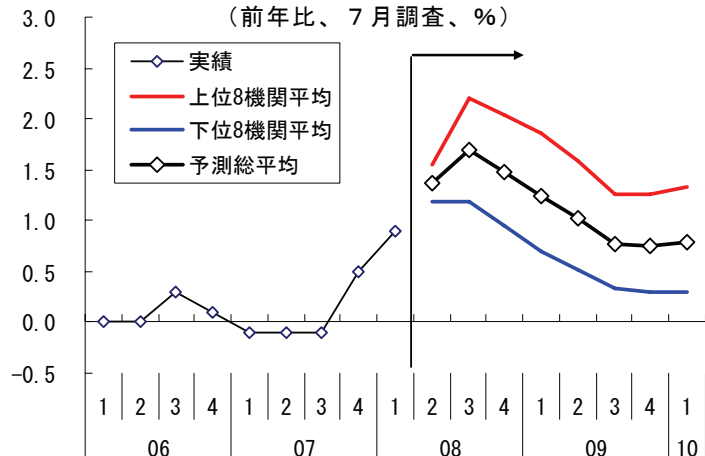
	2008年						2009年						引下げ	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月以降		計
回答数	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	4	22	1	35

（出所）経済企画協会「ESPフォーキャスト調査より作成

○ 消費者物価見通しが大幅上方修正

消費者物価指数（コア）の予測値は、2008年度が+1.44%（6月+1.19%）、2009年度は+0.85%（同+0.80%）となった。2008年度が大幅に上方修正されている。原油価格の上昇が続いていることに加え、足元における予想以上の食料品価格の上昇等を受けたものと思われる。なお、現時点でのコンセンサスでは、2008年7～9月期の上昇率は+1.70%となっている、実際には2%を越えてくる可能性がかなり高い。その後についても上振れの可能性は高いと思われ、今後、コンセンサスはさらに上方修正されてくることが予想される。

（図4） 消費者物価（生鮮食品除く総合）予測
（前年比、7月調査、%）



（出所）経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成

（図5） 消費者物価（生鮮食品除く総合）予測
（前年比、%）

